

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200034		
法人名	株式会社共寿		
事業所名	グループホーム木曾三川「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江629-1		
自己評価作成日	平成23年12月5日	評価結果市町村受理日	平成24年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成24年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各々利用翰様がその方らしく暮らしていただけるよう、ご家族も来苑しやすい雰囲気作りをしている。そのためには、接遇研修の成果を活かし気持ちの良い、真心のこもったあいさつを心がけている。また、ご要望、ご意見にも耳を傾けアットホームな苑をめざしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の出来る力を活かし、安心して日常生活が送れるように支援している。職員は、法人の、内部、外部研修に毎月参加し、会議で報告し全員で周知している。開設して1年ということもあり、皆で事業所を作っていくという思いから、勤務交代や福利厚生へ職員の意見や提案が積極的に取り入れられている。利用者一人ひとりの思いを尊重し、否定的な言葉かけをせずコミュニケーションを多くし、時にはずっと手をつなぐ等、スキンシップも図り信頼関係を築いて、拒食や行動障がい改善されている。転倒の危険性がある人にはベッドの横にマットを敷き、見守りを多くし、拘束をしないケアに取り組んでいる。風の無い天気の良い日には冬でも散歩をしている。花見や、行事見学、月1回のとろみ材料を持参しての外食等、外出支援に積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議で運営理念の唱和を必ず行っている。職員間で共有し日々のケアの中でいかにせるよう努めている。	職員会議で、理念が毎日のケアの中で実践できるように話し合っている。住み慣れた環境を出来るだけ事業所で維持できるように職員は心がけ、安心した生活ができるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の公共施設の行事や保育園の運動会に参加するなどして交流できるよう取り組んでいる。また近くの喫茶店に出向いたり周辺を散歩するなど地域と関わりながら暮らせるよう努めている。	近隣施設の運動会に、利用者が参加できるプログラムが生まれ一緒に楽しんでいる。保育園からの行事参加の勧誘や、児童登下校時の見守り声かけを行い、地域に認知症相談窓口である事を伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所前後の利用者様・ご家族様や面会者や地域の方に認知症介護の支援方法などアドバイスやサービスの利用についての情報提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見交換の内容については記録に残し福寿苑全体の課題として受け止め、話し合いにて検討しすぐに対処できるものに関しては改善し、次回の会議で報告できるよう対処している。	同一法人の4事業所が一緒に運営推進会議を行っている。家族・消防署・警察・自治会長・民生委員等多種の人達が参加し、意見交換がある。しかし、各自事業所毎の記載がなく、取り組み状況が分かりにくい。	事業所の内容は個々に違い、話し合いや取り組みの内容も異なる為、各事業所毎に、運営推進会議の内容を記載してサービス向上に活かしてほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に高齢福祉課・消防署の各担当者の出席の元、活動状況を把握していただいている。困難事例などの相談や情報提供を行い連携を深めている。	入居に対する住所や費用の問題、民生委員から出された高齢者の介護問題を、市町村と話し合っている。また、空き情報等を市町村に定期的に伝え、連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフが研修に参加し、勉強会を開き身体的、精神的、社会的弊害について学ぶ。緊急やむをえない場合の対応についても学んだが、スタッフがどんなことがあっても拘束しないという共通認識をもち、利用者の人権を守る姿勢を徹底している。	転倒の危険性のある利用者のベッド横にマットを敷き、見守りを多くしている。行動障がいの人には、職員の応答を検討し、医師と相談し拘束をしない介護が行われている。しかし、日中玄関の施錠解除についての対策は行われていない。	拘束や虐待の研修会に参加している。研修の実践として、玄関の施錠が、利用者に与える影響とリスクを家族に説明し理解を求めて欲しい。日中は少しでも開錠できるように、職員体制や環境等への工夫を希望したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、その結果を勉強会にて周知徹底している。インシデント・アクシデント報告書の中にも暴力の事例があり、関係性のあるものに関しては徹底的に調査し早期に対応していく心構えである。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネが研修に参加している。現時点では成年後見制度の対象となるケースはなく、制度についての理解を深め支援できる体制を作り活かして生きたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容に変更がある場合はその都度、説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来苑時や運営推進会議を通じてご家族に話しやすい雰囲気作りを心がけている。ご意見をいただいた時には職員間で共有しケア・運営の資質向上に取り組んでいる。	家族訪問時には報告をし、話しやすい雰囲気づくりを心がけている。利用者とは、個別に話し合える環境(居室等)で聞いている。買物の回数や暖房機の購入、家族からの携帯電話による会話希望等を、実現している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員間で意見や提案が出しやすい雰囲気作りを心がけており、参考になる意見やアイデアは反映するよう取り組んでいる。	管理者は、新設の事業所だから皆で築いていこうという思いもあり、職員に対して声かけを多くして意見を聞いている。職員の勤務交代、福利厚生の実施等、アンケートでの意見を取り入れ、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者との光な連携や現場に訪れるなど現場で起きている状況の把握に努めて必要に応じて迅速な対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修や施設内の勉強会を年間計画に基づき全職員が研修内容を共有し、知識・技術の向上が図れるように、研修に参加できるよう機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設幹部職員と月例会議や勉強会を設け、個々の施設で抱えている問題や活動状況など情報交換している。また、他施設と合同で催しものを行い交流する機会を作っている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談において今までの家族関係や生活歴、病歴を把握するよう努めている。また、ご本人の不安や要望に耳を傾けて入所後の生活ケアに活かせるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至るまでの経緯やこれまでのご家族のご苦勞に敬意を表し、ご家族が求めているものを話し合い理解し信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設として今何ができるところかを伝えご本人・ご家族は今どんな支援を必要としているかを話し合い、出来ることへの支援や対応を状況に応じ相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族と離れて暮らす不安、住み慣れた自宅と違った環境で生活することの寂しさに共感する姿勢、傾聴を念頭におき、利用者様が不安なく過ごしていただけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の今までの苦勞や思いに寄り添いながら、面会時には生活状況を細かく伝え、情報を共有することで家族と共にご本人を支えていける関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの友人・知人との継続的な交流ができるよう支援を行っている。	利用者の馴染みの情報を、入居前施設職員との面会、家族や本人の話、センター方式を利用して得ている。理髪店の利用や職員が馴染みの人と事前に連絡をとってから、電話をかけ、会話を楽しんでもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った利用者様同士で散歩や喫茶店・日光浴などの場面作りの支援をしている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じて相談にのったり、その後の状況把握に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりやコミュニケーションの中から思いや暮らし方の意向の把握に努めている。困難な場合にはご家族からの情報を元にケアに活かしている。	その人の好みや希望を話しやすくする為、落ち着ける1対1になる時間に聞いている。思いを伝えにくい利用者が話さず頷く事のみであっても、表情や顔色等をよく見て、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴や生活環境など日々の関わりの中で把握し、暮らしの中でとりいれていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活状況、心身状態を記録し情報共有し、現状が把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の視点にたつてご家族の思いや意見を聞き反映させるよう職員全員で意見交換を行っている。	利用者や家族、職員と話し合っ作っている。月に1回会議時に職員の意見を聞き、必要あれば医師の意見をもらい、変更時は家族に連絡している。職員には、計画の変更を申し送り時に伝え、周知を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況・日々の暮らしの様子を記録し、職員間で情報共有し現状が把握できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア団体や地域の保育園・小学校・中学校の様々な関わりの中で地域住民の一員として暮らしていただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご本人、ご家族へ協力機関について説明し希望を確認している。かかりつけ医以外での受診や通院もご本人やご家族の希望に応じて対応している。通院介助も行っており様子や変化を伝えるようにしている。	多くの利用者のかかりつけ医が、協力医である。専門医受診時は、事業所が2/3ほどの人の受診支援をしている。受診の前後には家族に報告を入れ、協力医とも連携して情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で体調や表情の変化を見逃さないよう状態変化に注意し早期発見に努め看護師に報告適切な医療に繋げている。看護師不在時は介護記録や電話対応にて他施設の看護師が対応、連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にかかりつけ医や看護師から医療機関に情報提供すると共に出来る限り毎日見舞うようにしている。長期入院になることでご本人やご家族に負担とならないよう回復状況等の情報交換を家族や病院関係者と行い早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時から施設の方針について説明し、早い時期からご本人やご家族の意向を把握するよう努める。	入居時に、重度化に対する方針を、事業所で作成した「看取り介護に関する指針」で家族に説明し同意を得ている。重度化の進捗の状況に応じて、その都度話し合いを行い、医師、看護婦、家族と共に、24時間の連携体制がとれるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には迅速に対応できるようマニュアルや連絡網を作成し設置している。また、救命士による蘇生訓練も実施指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火器や避難経路の確保等、設備点検と消防署による火災・避難訓練を行っている。	夜間想定した避難訓練を実施し、連絡網、車椅子の人の救助方法や、誘導順番を識別した印を部屋につけている。災害時の備蓄については、食料、水、衛生用具等を2日分程度用意している。	

自己	外部	外部評価		
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを大切に、さりげないケアを心がけている。また、人生の先輩として尊敬の気持ちで接することを心がけている。	利用者が実在しない人と会話をして、否定的な言葉かけをしていない。ポータブルトイレには日中カバーをかけている。拒食の人には言葉かけに留意し、その人の思いを尊重する事により、信頼関係を築き改善している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方に合わせ声掛け、表情や反応を注意深く見守り、自己決定できるよう努めている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のコンディションなど様子をみながらご本人の希望を尋ねたり、相談しながら過ごしていただいている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝夕の着替えは生活にリズムと張りをもたらすので好きな色や柄そして、安全で癒しの雰囲気のあるものを選んでもらっている。散髪に関しても各利用者の要望に応じ、地域の美容師さんに来設してもらっている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入所前の事前調査や契約時に利用者・ご家族に嗜好調査をしその結果にてメニューを考慮している。高齢者なので減塩に努め、力量に応じて皮むきやお膳拭きなどの手伝いをしてもらい、昼食は職員も一緒にしている。咀嚼力の状況に応じた内容を提供している。	利用者や職員の配置を工夫して、混乱したり、不安なく食事ができるようにしている。メニューのリクエストも取り入れている。利用者の力に応じて、下膳、台拭き、皮むき、コロッケ作り等を手伝ってもらっている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	活動量の多い人と動きの少ない人ではエネルギーの消費量も違うため体重に増減がないか観察、摂取量、水分量、尿量のチェックを施行。食事の形態を変更したり水分摂取の回数を増やして摂取量をキープしている。併せて摂取量が不良の人には義歯の装着具合もチェックしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内には多数の細菌が常在していることを踏まえ毎食後必ず実施。義歯装着中の方も外して実施している。歯周病のある方で口臭が強い方には洗口液を使用。歯のない方もデンタルフロス、歯ブラシを使用気分が爽快になるようお手伝いしている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な排尿誘導や刺激による排尿誘導と環境調整併せて精神的苦痛・不安の軽減に努め、排泄の失敗があっても自尊心を傷つけないような心配りをしている。極力オムツにしないよう、その人に合った対応を支援している。	車椅子の人には、2人介助でトイレ排泄を試み、布パンツ利用を希望する人には、トイレ排泄を援助している。夜間はポータブルトイレをベッド脇に置き、紙おむつを使用せず、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便習慣の確立、繊維性食品、水分補給の援助、腹部・腰部マッサージ、温罌法などを施行し不安、不眠、イライラなどの心理的要因を軽減するよう努めている。運動不足の方には散歩やリビング内での歩行も勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴するまでの声掛けとタイミングに心がけ個々の対応になるのでその方のペースに合わせゆったりとした時間をもっていただけよう支援している。脱衣所、浴室内においては安全を優先し転倒などの事故がないように注意している。	機械浴、リフト浴も準備し、利用者のペースを尊重しながら、週2回以上の入浴を行っている。入浴を希望しない利用者には、言葉かけや誘い方を工夫している。入浴時に職員と一緒に歌を唄う等、楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境調整や就眠の援助、身体的苦痛の除去や夕方から夜にかけて穏やかに過ごしていただくよう、穏やかな気持ちでいられるよう、日中は活動的に生活リズムを整えるよう、利用者同士心地よく交流がもてるよう調整役をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	高齢者は腎機能・肝機能が低下し成人に比べ副作用が強く出たり効果も遅い場合があることや、散剤がむせる方など、その方に合わせた飲ませ方を工夫。薬の効能、副作用がスタッフ全員にわかるよう特定の場所に用紙を設置。連絡ノートにも変更事項を記載、周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	長年愛用してきた食器、家族の写真など見慣れたものに囲まれた生活をしてもらい、カラオケ・おりがみ・ラジオなどその方のお好きなもので気分転換や他の方との交流に繋げている。レクの作業に関しては状況に応じることができる範囲内で声掛け見守りながらお手伝いしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々にはご家族の面会時、気分転換を兼ねた外出を依頼、施設では利用者を総合的に考え行く先を考え利用者にも希望を取ったり、喜ばれるような場所への外出支援を行っている。	天気の良い暖かい日は、車椅子の利用者も一緒に、冬でも散歩に行っている。家族には面会時等に、積極的に利用者と一緒に外出してもらおうよう依頼している。希望を募って、定期的に月1回の外食や花見・行事見学等に行っている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		現時点では個別及び施設でのお金の所持、お預かりは行っていない。利用者様が不安なく生活できるよう本人・家族とも相談しながら、力量に応じ対応させていただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		利用者様の要望により、はがきや手紙などがご家族に届くよう対応している。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		フロアの飾りつけは、生活感や季節感のあるものをうまく活用しながら暮らしの場を整えている。  畳のある場所には掘りごたつ、壁際には気の合った者同士でくつろげるソファを配置している。レクリエーションで作成した季節を題材にした作品を壁に貼ったり、季節催事の飾り物を飾ったりして、季節感を感じてもらえるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		ソファや椅子で過ごされる時は仲の良い利用者様同士が寛げるスペースである。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		写真や人形といった馴染みの品や思い出の品々が持ち込まれ、利用者の居心地のよさに配慮している。  家族の写真、自作の貼り絵、馴染みの家具、時計や観葉植物を置いている。職員が工夫した蓋つきオムツ箱や、窓に西日を遮るよしのカーテンを設置し、濡れタオルをかけて乾燥対策をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		混乱や失敗が生じた時は、その都度、職員で話し合い、ご本人の不安材料を取り除き自立支援に繋げる工夫をしている。	

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200034		
法人名	株式会社共寿		
事業所名	グループホーム木曾三川「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江629-1		
自己評価作成日	平成23年12月5日	評価結果市町村受理日	平成24年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成24年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議の前には運営理念の唱和を必ず行い、職員間で共有し職員の心得を常に念頭におき、日々のケアの中で行かせるよう努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の公共施設の行事や保育園の運動会に参加するなどして交流できるよう取り組んでいる。また近くの喫茶店に出向いたり周辺を散歩するなど地域と関わりながら暮らせるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所前後のご利用者様・ご家族や面会者や地域の方に対して、認知症介護の支援方法などアドバイスやサービスの利用についての情報提供を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見交換の内容については記録に残し、福寿苑全体の課題として受け止め、話し合いにて検討しすぐに対処できるものに関しては改善し、次回の会議で報告できるよう対処している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に高齢福祉課・消防署の各担当者の出席の元、活動状況を把握していただいている。困難事例などの相談や情報提供を行い、連携を深めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフが研修に参加し、勉強会を開き、身体的、精神的、社会的弊害について学ぶ。緊急やむお得不い場合の対応についても学んだが、スタッフがどんなことがあっても拘束しないという共通認識を持ち、利用者の人権を守る姿勢を徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加しその結果を勉強会にて周知徹底している。インシデント・アクシデント報告書の中にも暴力の欄があり関係性のあるものに関しては徹底的に調査し早期に対応していく心構えである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネが後見人制度に関する研修に参加している。現時点では成年後見制度の対象となるケースはないが制度についての理解を深め、支援できる体制を作り活かしていきたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容に変更がある場合はその都度、説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来苑時や運営推進会議を通じてご家族に話しやすい雰囲気作りを心がけている。ご意見をいただいた時には職員間で共有しケア・運営の資質向上に取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員間で意見や提案が出しやすい雰囲気作りを心がけており、参考になる意見やアイデアは反映するよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者との密な連携や現場に訪れる等、現場で起きている状況の把握に努めて必要に応じて迅速な対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修や施設内の勉強会を年間計画に基づき全職員が研修内容を共有し、知識・技術の向上が図れるように、研修に参加できるよう機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設幹部職員と月例会議や勉強会を設け、個々の施設で抱えている問題や活動状況など情報交換している。また、他施設と合同で催しものを行い交流する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談において今までの家族関係や生活歴、病歴を把握するよう努めている。また、ご本人の不安や要望に耳を傾けて入所後の生活ケアに活かせるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至るまでの経緯やこれまでのご家族のご苦勞に敬意を表し、ご家族が求めているものを話し合い、理解し信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設として今何ができることかを伝え、ご本人・ご家族は今どんな支援を必要としているかを話し合い、出来ることへの支援や対応を状況に応じ、相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な関係や考え方にとられず、共に過ごし支えあうような関係作りに努めている。共に暮らす中で苦しみや不安・喜びを理解し声かけできるようにする		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子や日頃の状況を詳しく伝え、ご家族との情報共有に努めている。利用者本人にとってもご家族の支えは重要不可欠であるため、協力・信頼関係が築けるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設になかなかお越しいただけないご家族にもイベントの写真や毎月の手紙などで状況の報告を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士が関わりあえるよう、席の配慮をしたり、お互いの生活に負担や心理的圧迫を感じさせることのないよう、各利用者の精神状態や行動に気配りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談にのったり、再入所していただきやすい体制を心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で各々利用者の思いや要望を確認し把握するよう心がけている。コミュニケーションがうまくとれない方にはご家族から情報を得たり、表情や行動から思いを汲み取るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の思いや今までの生活スタイルや習慣などをじっくり傾聴し、日々の生活に出来る限り取り入れていけるよう支援する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック施行にて体調と心理状態を把握できるよう、詳細に記録しより良いケアができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族との関わりの中で職員全体で利用者様の日常生活に関する意見を出し合い、充実した生活を送っていただけるように介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の情報交換(申し送り、介護記録)や日々のケアの中で気づいたこと、発見したことを詳細に記録し状況に合ったケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望・相談などにも臨機応変に対応し、通院や送迎などの必要な支援にも柔軟に対応、個々の満足度を高めるよう努めている。		

グループホーム 木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア団体や地域の保育園・小学校・中学校の様々な関わり合いの中で、地域住民の一員として暮らしていただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に御本人、ご家族へ協力期間について説明し希望を確認している。かかりつけ以外での受診や通院も御本人やご家族の希望に応じて対応している。通院介助も行っており、様子や変化を伝えるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で体調や表情の変化を見逃さないよう状態変化に注意、早期発見に努め看護師に報告適切な医療に繋げている。看護師不在時は介護記録や電話対応にて他施設の看護師が対応、連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にかかりつけ医や看護師から医療機関に情報提供すると共に出来る限り毎日見舞うようにしている長期入院になることで御本人やご家族に負担とならないよう回復状況等の情報交換を家族や病院関係者と行い早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時から施設の方針について説明し、早い時期から御本人やご家族の意向を把握するよう努める。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には迅速に対応できるようマニュアルや連絡網を作成し、設置している。また、救命士による蘇生訓練も実施指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火器や避難経路の確保等設備点検と消防署による火災・非難訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各々利用者様のこれまでの生活歴などを十分に理解し人生の先輩として接し尊敬の気持ちを持ってケアを行うよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で利用者様の話す内容から何を望んでおられるのかを汲み取りご本人の生きる気力を引き出すことが出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で毎日同じ時間に同じことをするのではなく、一人一人の体調や天候に合わせて外出支援やさんぼなどができるようにする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝夕の着替えなどは生活にリズムと張りをもたらすので、好きな色や柄を選んでもらい、清潔で安全に配慮した安心・信頼してもらえるイメージのものを選んでもらえるよう支援している。地域の美容院より定期的に来設してもらい利用者の好みの髪型にしてもらう		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人らしく暮らしていただくための情報シートにて嗜好調査を実施、その結果にてメニューを考慮、利用者様の力量に応じて皮むきやお膳拭きなどをお手伝いしてもらっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	活動量の多い人と動きの少ない人ではエネルギーの消費量も違うため、摂取量のチェック、体重に増減がないか、水分量や排尿回数や量など、観察、チェックを継続している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内には多数の細菌が常在していることを踏まえ毎食後、歯磨きを実施。義歯は外し歯ブラシで清掃。歯のない方も口腔ケアをデンタルフロスを使用し施行し、爽快感を味わってもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な排尿誘導や刺激による排尿誘導と環境調整併せて精神的苦痛、不安の軽減に努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便習慣の確立、繊維性食品、水分補給の援助、腹部マッサージ、温罨法などを行い、かつ不安、不眠、イライラなどの心理的要因も軽減するよう努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	まず入浴するまでの声掛けとタイミングを心がける。その方のペースに合わせ、ゆったりとした時間をもっといただくよう支援し、脱衣場、浴室内において安全を第一に考え転倒などの事故がないよう注意する		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調や体力を把握し、天気の良い日には日光浴を行うなどして安眠のできる環境を整えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は職員がいつでもめを通すことができるよう設置している。利用者様の状況に応じ確実に内服していただけるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用皆様とのコミュニケーションや話の傾聴に努めやりたいこと、望んでいることを見つけ出し、楽しみにつなげるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の体調や天候・季節により散歩や喫茶店にでかけることが出来るよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金に関する不安や不満が生じないように、自己管理能力を考慮しながら、ご本人やご家族と話し合いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の要望によりはがきや手紙などがご家族に届くよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングなどには季節の花を飾り季節の移り変わりがわかるようにしている。やさしい光が差し込むデザインとなっており落ち着きを感じられるよう工夫されている。トイレも使用後清潔にし、不快感を取り除くように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様がリビング内のソファや玄関に設置してある椅子を利用して思い思いにくつろいでいただけるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使用されていた馴染みのあるものを持ち寄って見慣れたものに囲まれることで心の安定につなげ精神的な負担がかからないようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の残存能力の状態を把握し、歩行範囲や車椅子での動線確保など安全にかつ自由に動いていただけるよう工夫している。		